平成２８年度　第２回小松島市地域公共交通活性化協議会　議事録

【日　　時】　平成２８年８月１７日（水）　午後１時３０分から
【場　　所】　小松島市保健センター　２階多目的室
【出席委員】　稲田委員、植木委員、漆原委員、小野委員、加藤委員、北島委員、
木村委員、日下委員、久米委員、古賀委員、関本委員、徳田委員、
豊田委員、平野委員、孫田委員、松村委員、宮城委員、山本委員
（以上１８名）

【会 次 第】　１．開会
２．委託業者選定のプロポーザルの結果報告について
３．議題
（１）小松島市地域公共交通網形成計画における新たな公共交通網の
検討の方針について
（２）各種調査の実施方針について
（ⅰ）市民アンケート調査について
（ⅱ）９月期 OD 調査（バス乗降調査）について
（ⅲ）JR 利用者の移動実態調査について
４．今後のスケジュールについて
５．閉会

【会議概要】
午後１時３０分　開会

【事務局より開会の言葉、配布資料の確認】

それでは、このあとの会の進行につきましては、会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【会長】
委員の皆様方、徳島の阿波踊りが終わってまだ２日しか経っていない日で、かつ今日は朝から天候が不順でございますが、ご多用中のところ、またお暑い中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。それでは、地域公共交通活性化協議会を開催したいと思います。
今日の議題はですね、会次第をご覧いただくといくつか用意されております。委託業者選定のプロポーザルの結果を受けて、これは前々回の会議になるんですけれども、委員の

皆様方のご同意をいただきまして、一部の部会の形で審査をさせていただきました結果を事務局よりご報告させていただきます。それから、用意されている議題といたしましては、小松島市地域公共交通網形成計画における新たな公共交通網の検討の方針、これを議論したいと思います。その方針を立てるにあたってのいろいろな調査もの、市民アンケート調査、OD 調査、それから JR 利用者、こちらのことをですね、議論してまいりたいというふうに思います。それではですね、この会はこの通り進行していきたいと思います。

ではまず最初に、今日の会を公開、またはですね、傍聴の方を臨席いただけるのかどうかということの考え方を整理したいと思うんですが、事務局のほう用意できているでしょうか。お願いします。

【事務局】

本日の会につきましては特に個人情報等ございませんので、原則公開という形でさせていただきたいと思いますが、委員の皆様よろしいでしょうか。

【会長】

異議ございませんでしょうか。それでは公開といたしますので、公開にあたりまして注意をお願いいたします。

【事務局】

それでは、本協議会を傍聴される皆様に傍聴に際しての注意事項を申しあげます。傍聴に際しましては、左側に掲示してございます注意事項をお守りいただき、会議の秩序の維持にご協力をお願いいたします。

以上でございます。会長、よろしくお願いいたします。

【会長】

それでは会次第 2 の委託業者選定のプロポーザルの結果報告について、委員の皆様方、お手元に資料①をご用意いただきまして、事務局からの報告をお願いします。それではよろしくお願いいたします。

【事務局より資料①委託業者選定に係るプロポーザルの結果について説明】

【会長】

ありがとうございました。報告がございました。以上の経緯なんですけれども、出席していただいていなかった委員さんも含めまして、なにかご質問等ございましたらお願いしたいと思います。よろしゅうございますでしょうか。

A委員さん、出ておられましたけど、何か感想めいたことでもございましたらどうぞ。

【Ａ委員】

5 月の第 1 回のこの協議会には、私、失礼ながら欠席させていただいてまして、プレゼンのときには選抜いただきまして 8 名の中の委員として参加させていただきました。5 社のプレゼンを受けたわけなんですけれども、そして評価させていただきましたけれども、どの業者も非常に誠実にプレゼンしていただきまして、ちょっと迷うようなところもあったぐらい拮抗していたと感じております。以上、かいつまんで感想を述べさせていただきました。

【会長】

まあそういうことで、評価基準につきましても、契約金額というか予定額を含めましての総合評価という形をとらせていただきましたので、最終的に本日出席いただいておりますコンサルタントさんと契約ということになりました。以上、ご報告をさせていただきたいと思います。よろしゅうございますでしょうか。

それではですね、議題を進めてまいりたいと思います。3 の（1)、小松島市地域公共交通網形成計画における新たな公共交通網の検討の方針について、資料②をお手元にご用意いただきまして、事務局からの説明を受けたいと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局より資料②小松島市地域公共交通網形成計画における
新たな公共交通網の検討の方針について説明】

【会長】

このような方針に基づき、地域公共交通網形成計画、これを行政計画として作っていく作業、それに関する意見の交換の場として協議会を使っていきたいと思います。何かご不明な点等ございますでしょうか。

今日、私、またバスを使ってこの会場に来たわけなんですけれども、自己紹介の時から何回も言ってますけれども、私は自家用車を持っておりません。いろんなところに行くのにバスか自転車で行くわけなんですよ。自転車ってこの中になかったんですけれども。どういうバスを使っているかというと、今朝、警察学校で用事がありましたので、徳島駅から徳バスに乗りまして大江橋まで。授業終わりまして、この会議に間に合うように大江橋から日赤前まで乗って、日赤病院でご飯を食べて、もうちょっとご飯を早く食べればミリカホール行きのバスに間に合ったんですけれども、ちょっと無理なので歩いてここまで来ました。バスって非常に安く乗れると思うんですけれども、だって徳島駅から大江橋まで 250 円だし、大江橋から日赤まで 190 円なんで、あんまり高いなあとは思ってないわけなんですよ。ところが、皆さん、ここのアンケートでもわかるように、自動車を使われるんですよね。自動車っていうのはいろんな計算式があるんですけれども、実は、1 年間に 1 万

キロ、自家用車のメーターで上がっていく人であれば大体タクシーよりも安くついているっていうデータがあるそうなんですね。1 万キロを 1 年間に乗らない人は、むしろ自家用車は乗らないでタクシーに乗ったほうがいい。それは根拠があって、駐車料金なんかも払っていますよね、それから税金も払っていますよね、それから車の減価償却もしていきますよね。そういうのを全部込々で考えたら大体そのぐらいになってしまうそうなんですよ。でも、地方はそのぐらいお金がかかっているんだけれども、実はその公共交通が非常に不便になってしまって自動車が乗れるうちは利便性、すなわちいつでも自分の行きたいところに行けるという利便性のほうが勝ってしまうんで、皆さん自動車運転免許を取られて、安全に自動車が運転できる間は自動車を使おうと、その結果がですね、今日グラフでお示ししましたように、資料②の 3 ページ、通勤・通学や仕事や日常の家事に関してはほとんどの、70%の方が自動車を使われているという現状なんですよね。地域交通の課題っていうのは、これが大前提なんですよ。これを世の中変えようということはたぶんできないんじゃないかなあと思うんですね。仮にこの世の中変えるためには、たぶんものすごくコストがかかる。たぶん 20 分に 1 本ぐらいバスが来れるような状態にして、これから議論する交通空白地域なんかもなくして、鉄道の乗り換えももっと利便性をよくしてですね、そういうことをやって、自動車に乗るより便利がいい、お金もかからないという社会を作らないと難しいと思うんですね。それはちょっと一地域や一都道府県ではたぶん価値観がひっくり返らないのではないのかというふうに思うわけです。

もう一つはですね、時間軸の問題なんですけれども、この交通活性化協議会の前の話っていうのは、例えば小松島市の市バスの運営をどうするんだろうかという議論というのは何回もやってきました。そこでアンケートなんかを取ると、こういう意見が多いですね、現役世代が「今はいらないけど、将来はいる」、そういう意見。だから、「いずれ自分たちは自動車を使えなくなるかもしれないけれども、今はとりあえず公共交通には用事がない」というふうな意見が大多数を占めてしまうんですね。年配の方のご意見は、やはり車に乗る自信がないからやっぱりバスなんかを使いたいという意見に大体集約されてくるというのが特徴なんですね。その 2 つのことを考えるとですね、公共交通の活性化の協議会、活性化するのっていったいどうしたらいい。みんなが使えるようにするにはどうしたらいいですか。この問いに答える作業をこれからしていかなきゃいけないわけなんですよ。どうしたらいいですか。みんなここで止まってしまいますね。本当に難しいテーマなんですね。活性化するには、今事務局からありましたように使っていない人に少しでも使ってもらうという工夫がまず大事。そのためには、「お前使えよ」と言っても使わないですよね。だから、便利よくする方策を考えるということがメルクマール（指標）になってくるんだと思います。そういうふうな形で計画を見ていってほしい。で、事務局と打ち合わせをしなかったんですけれども、時間軸の問題なんですが、これ、計画期間って定めるんですかね。

【事務局】
国の補助金もいただいて計画を定めるんですけれども、指針としては５年間というふうな目標が出ております。

【会長】
5 年というとですね、2019 年（平成３１年）にインターチェンジができますよね。小松島インターチェンジの開通予定は 2019 年（平成３１年）と伺っているんですが。

【Ａ委員】
私から説明させていただきます。国交省自体の、直営の直轄事業なんですけれども、国交省では、実はまだ完成時期は発表しておりません。ただ、県議会なり、いろんな委員会で、目標を平成 31 年度までに供用開始したいと、つまり会長がおっしゃっていたような 3 年先に、という話です。まだ用地の取得が、阿南市の大野から小松島市の前原インターまでの間に限って話をしますと 100%の用地取得には至ってないもので、そのへんの完成予定がもうひとつはっきりしないんだろうと思います。ただ、こんなこと申し上げていいかわかりませんけど、土地収用法及び租税特別措置法の適用となる事業案件なんで、やろうと思えば国はやれるはずなんです。ただ、なるべくそういう手法は取りたくないという配慮がおありになるんだろうと思いますけれども、今ぎりぎり平成 31 年までに間に合うか間に合わないかのちょうど瀬戸際みたいなところらしいという話は聞いております。

【会長】
まあ不確定要素もありながら、一応計画期間の中には高速道路の開通も視野に入れた議論はしていく必要があるというということは言えそうな気がします。ちょっと先に私がしゃべりましたけれども、非常に難しい案件につきまして、こういった方針、再度確認をしておきたいと思うんですけれども、後ろから 3 枚目でございます。課題が明らかになってきて、人口減少社会、高齢社会の到来、したがって公共交通にかかるニーズっていうのはやはり、なくなるものじゃないという認識、それから、自動車の移動率が非常に高いというのは、皆さんもお感じの通りでありまして、現状こうなんだけれども、もう少し利便性を高めて少しでも掘り起こしを図る、人口の多いエリアは、交通弱者の多いエリアだけではなく、空白地域にもある潜在需要の掘り起こしを図る、一応こういった課題をまとめて、交通網計画をですね、策定していきたいというふうに提案がなされております。以上、方針案出ておりますが何か、はい、お願いします。

【Ｐ委員】
資料②の 7 ページ、先ほど先生がおっしゃられたところなんですけれども、3 項目めの通勤・通学時の交通手段で 7 割が車利用とあるんですが、この資料はどこからか。そしてア

ンケートを取ればわかってくるとは思うんですけれども、通勤でどのくらい、通学でどのくらいなのか。あと、65 歳以上の方がどれくらい車を利用しているか。あと、資料②の 3 ページの資料等も含めまして、年代別の資料が今現在あるのかどうか。あとその下の資料②の 7 の人口の多いエリア、空白地帯が残存するということだったんですが、今までそのあたり認識して交通に関しても計画というのをされてきたのかどうか。またその地域の声というのが今まででもしありましたら教えていただけたらというふうに思います。以上、わかりにくかったかもしれないんですけれども、よろしくお願いします。

【会長】

調査の中で、アンケートを使って明らかにしていくという項目も、もうお気づきの通りあろうかとは思うんですが、とりあえずグラフの根拠、②の 3 ですかね、こちらについてわからないので、準備ができましたらお願いしたいんですけれども。

【事務局】

事務局でございます。まず②の 3 のところについては、出典は右下のほうに書いておりますように、平成 22 年度の国勢調査の結果によりまして想定しておるということでございます。国勢調査の各項目の中に、通勤・通学でどういうふうなものを利用しているかという項目があったのでこれもオープンな数字でございまして、ここからの出典の数字でございます。ただ、年代別というのはちょっと今の時点では整理はできておりませんけれども、そこも数値としてあるのであれば、整理はして、また何らかの形で把握はしておきたいなというふうには考えております。それから、②の 7 のほうですかね、空白地域の把握の状況というふうなお尋ねでございました。過去 2 回ほど、本市でも公共交通に関してアンケートを行っております。平成 23 年に市営バスがあった当時にバスでアンケートを行ったのと、市営バスを廃止するとき、平成 25 年ですね、そのときにもアンケートを行いまして、自由記載欄も設けておりましてですね、そこからはある程度バスの存続についてとか、必要性とか、そういった観点からご意見もいただいております。今回につきましてはですね、本市のバスについては民営化した後の、しかも路線も若干その時点で変更した経緯もありますので、現状でのアンケートをさせていただく中で、また改めて空白地域を把握して、ニーズをその中で整理していきたいなというふうには考えておるところでございます。以上でございます。

【会長】

ちょっと難しい言葉なんですけど、「ユニバーサルサービス」、すべての人にサービスを提供しましょうという考え方なんですね。ですので、公共交通っていうのは基本的に誰でも使えるような状況にしていくのがメルクマール（指標）だろう、ちっちゃい子どもだろうが、お年寄りだろうが、どこに住んでいようが、という話なんですね。国全体では交通

権という権利を基本的人権の中に入れるべきではないかという意見も出ていたんですけれども、そこまでは成熟しなかったんですよね。専門家もいる前で恐縮ですけれども、交通基本法っていう法律を作る、どこにでも行ける権利っていうのを、さすがにその基本的人権としてきちんと整理するのはさすがにまだ時期が必要かなという意見だったというふうに認識をしています。ですので、地域交通というのは、一応市がですね、全体、市全体にくまなくサービスを提供しましょうという考え方に基づくものであるということがわかると思います。

あと、視野に入れなきゃいけない事項としてですね、この会の中には交通事業者さんは、バス会社さんと鉄道事業者さんなんですけれども、おそらくですね、福祉のサービスなんかをタクシーでされていたりする企業も小松島市内にあるので、広い意味ではそれも公共交通の中に取り込んでいかないとですね、サービスがきちんとできないんじゃないかなというふうに思う時もあります。それから、もちろんタクシー会社の中には、介護の枠組みの中で、介護タクシーですね、運転されている企業さんもありますし、お年を召された方であればあるほどですね、そういったニーズが高まってくる、ということは言えると思います。ただ、失礼ながらですけれども、本当にお年を召された方はおうちの中だけになってしまうので、そこで公共交通のニーズはとりあえず途絶えるということになるわけでありますので、高齢社会をにらんでいくときにもですね、そういったことも必要かと思います。今もＰ委員からご意見いただいた中には、すみません、Ａ委員さん、市役所の定年規定はまだ60歳ですか？

【Ａ委員】

はい。

【会長】

まだ60歳ということで。再雇用ですか？

【Ａ委員】

再任用です。

【会長】

再任用か、再任用で65歳。市役所はいまそういう仕組みなんですね。で、民間企業でもですね、再雇用の仕組みがいろんなところで整いつつありますから、けっこう65歳くらいまでの前期高齢者といわれる方が通勤の手段として使われていくし、今後使っていくだろうという話にもずれてきますんで、その辺もＰ委員さんがおっしゃっていただいたようにちゃんと階層別にこの利用状況をつかまなければいけないんじゃないんですかっていう話は非常に重要な要素だというふうには思います。事務局のほう準備と、コンサルさんもい

ますので、解析のほうをお願いしたいと思います。
1個目の方針で意見を出していただきましたので、作業を進めていただければというふうに思います。それでは、次の議題に移りたいと思います。今ご意見出ましたように、ちょっとデータ不足の感があり、もう少し議論を深めるためにはですね、少し調査をしてみる必要があるんじゃないかというふうなご意見もございました。とりあえず、現在、事務局とコンサルタント会社の間で今あるデータを議論の土台とするためにですね、精緻なものにしていくために、どういった補足調査をされるかということをですね、ご説明を受けたいと思います。アンケートからお願いいたします。資料③ですかね、お願いします。

【事務局より資料③市民アンケートについて説明】

【会長】
非常に細かいアンケート設計をされていると思うんですけれども、大丈夫ですかね。取りたいデータの目的がよくわかると思います。アンケート、難しくないですか。とりあえずやってみますか。何通ですか。

【事務局】
最初にありましたように、3,000人の方を無作為抽出して、送付するという予定でございます。

【会長】
3,000通。
はい、どうぞ。

【Q委員】
すみません、わかれば教えていただきたいんですが、23年と25年にもアンケートをされたということなんですが、そのときの対象者と回答率がわかれば教えていただきたいなと思います。

【会長】
ではお願いします。準備ができ次第。

【事務局】
事務局です。23年度の対象についてはですね、同じく3,000名の方に送付をしております。手元にちょっと資料がないんですけれども、25年度も同様の数値であったかなと。ちょっとこれまた確認させていただきたいと思います。それと、回答率についてもちょっと

申し訳なくて、今手元にはないんですけれども、私も25年の時には担当としておりまして、3割を若干上回るくらいの数字であったのかなあというふうに記憶をしております。以上です。

【会長】
どうぞ、H委員さん。

【H委員】
アンケート調査の設問でちょっと教えていただきたいことがあります。問3と問6、問8についてお聞きします。

1点目の問3については、「小松島市のバス交通に対するあなたの優先度についてどのように感じていますか」という設問なんですけれども、ひとつ前にも問 2 の設問で「バスについて満足していますか」という質問があって、次の問 3 で同じような選択肢で「優先度はどう感じていますか」っていうのが私にはちょっとすっと入ってこなくて、これは「重要度」ではないのかなという気がするんです。今の小松島市のバス交通にAからSまでの選択肢の中でどんなに満足していますか、じゃあ今度は問 3 でその中でどれを重要と思いますか、という問いのほうがすっと入ってくるように感じました。

2点目として、問 6 の、デマンドバスの意向を問う設問について、ここで設問を拝見すると、「自宅付近の停留所まで迎えに行って、目的地近くの停留所に運ぶ」というのを「デマンド」と定義しておられるんですけれども、いろんな運行形態のデマンドバスがあると思いますけれども、普通「デマンド」というと、通常、予約を入れて、自宅に迎えに来て目的地まで運ぶ、それか目的地に近いバス停で降ろすというドア・ツー・ドアのデマンドバスの運行を指すのではないかと思います。このアンケートでは自宅付近のバス停から乗って、目的地付近の最寄りのバス停で降りるというデマンドバスの方式となっていますが、私自身も不勉強なんですけれども、他の自治体でも自宅の最寄りのバス停から目的地の最寄りのバス停まで運ぶデマンドというのは、全国の中でも多いんでしょうかという質問でございます。

3点目として、問8の、「バスをもっと利用してもらうためにどうすればいいですか」という設問について、これを私事、一市民だと思ってこの設問の問いを考えておりますと、2に運行本数、3に運行ダイヤがあって、本数が来てダイヤが来たら、普通は運行ルートではないのかなと。例えばある地点までしかなかった運行ルートをちょっと延伸する、今まで通っていた運行ルートを変更してもっと需要の多い運行ルートに変更する、といったような運行ルートの延伸、変更を行うという選択肢を入れてはどうかなと思いました。

それと、6、7 で、鉄道との乗り継ぎ、バス路線との乗り継ぎを便利にするというのがあるんですけれども、乗り継ぎを便利にするということは、すれ違い便を便利にするという点もあると思いますし、乗り継ぎをすることによって運賃を安くする、割引をするという

点もあると思います。そうした趣旨を設問に追加してはどうかと思いました。

それと、9のところで、運行状況をわかりやすくするという設問があります。この運行状況をわかりやすくするというのは、すぐに私の中で思いついたのがこれだったんですけれども、近くを運行しているバスの接近情報などをスマートフォンなどでお知らせするというバスロケーションシステムのことでしょうか。

このアンケートの調査票を見させていただいて、このように感じましたので、事務局のお考えをお聞かせいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【会長】

まず、整理しますと 6 つあるんですけれども、私のほうから最初に言っておくと、この満足度・優先度のアンケート方式というのは実は業界の流行りなんですよ。まちづくりとか地域計画なんかの流行りで、このギャップが大きいものから優先して取り組んでいこうというのを選択する手段なんですよね。だから、市民の皆さんが「これを解決してくださいね」と思っている得票が多いもの、得票が多いんだけれどもそれに対して満足度が低ければその点数の開きが大きいので、そこにリソースを優先してつぎ込もうというですね、そういう理屈のですね、流行りのようなものがこの 3、4 年ありまして。そういうところをこれにも入れ込んだということになっていると思います。

事務局、大丈夫ですか。お願いいたします。

【事務局】

事務局でございます。今、会長のほうからも説明いただきましたように、３ページと４ページの満足度と優先度については、満足度と優先度のギャップですね、この違いからニーズを把握すると。たしかに、おっしゃっていただいたように、優先度というよりは重要度というふうな話もございまして、優先度というのがちょっとすっと入りにくいのかなというのがたぶんあるのかなというのはお感じになられたのかなと思いますので、表現はちょっと工夫はしたいとは思うんですけれども、趣旨はそういうことでございますので、そこでニーズを把握したいというふうなところでございます。過去の 25 年の調査もこういうふうな表現を使っておりますので、できたら同様の趣旨でいきたいなというふうには考えております。

【会長】

アンケートの問３の優先度、満足度の後に、どういった意味で使っているのかについて補足説明を付け加えますか。括弧書きで説明を加えた方が意味が伝わりやすいと思います。

【事務局】

解説するような文言で、もうちょっとわかりやすいような表現を入れられたらなという

ふうに思います。

それから、問6については後のほうでお答えさせていただきます。

それから、問 8 でございますね、まず、ルートの延伸であるとか、ルートの変更、路線の変更によってもっと利用したいところを入れてはというようなことでございます。趣旨は 4 番にありますようにバスの行き先、目的地を増やすという設問がございまして、その中に、例えばここへ行きたい、ルートの変更であるとか、ルートの延伸等は含んでいるような想定での設問というふうなことでございます。それから、6番目と7番目の乗り継ぎの利便性については、おっしゃっていただいたように、時間だけではなくて運賃の利便性というのもあるのかなというふうなことでございまして、たしかに、連携が必要というふうには思いますけれども、それの利便性もたしかにあるのかなというふうなことでございますので、ちょっとこれは工夫して何らかの表現で入れられるようにできたらなというふうに思います。それから 9 番目の運行状況についてはですね、おっしゃっていただいたようにバスロケですね、最近、バスが今どのへんを走っておるのかというふうなことを把握できたらお待ちいただいている方もストレスなく待っていただけるのかなというふうな想定でございまして、ただまあ表現だけではわかりにくい、運行状況を分かりやすくするというだけではわかりにくい、あるいはまた補足のようなちょっと文言を入れられたらなというふうに思います。

問 6 のデマンドバスの件でございますが、私ども小松島市は従来通りの路線バスを運行しておりますが、デマンドバスについては全国様々な方式がありますが、比較的多い形式といたしまして、交通空白地域で走っているデマンドバスについては、ごみを出すところがバス停の代わりというふうなところを採用しているところが多いと聞いております。日頃、ごみを小出しではなくてここまで持ってきてくださいねと衛生が回収するところですね、ごみを回収するところ。そこがバス停代わりになって、そこのごみの集積場所をバス停代わりに使っているところが多いと聞いております。また、静岡県のほうではですね、新たな取り組みとして、タクシー会社の空きを使って、タクシー会社が暇なときにデマンドバスをタクシーで運行するというのがありまして、そちらのほうについては、ドア・ツー・ドアのところもあると聞いております。ちょっとわかりにくい説明で申し訳ございませんが、以上です。ですから、基本的にはバス停を定義をして、バス停から公共交通機関までというデマンドバスが今のところ全国的には多いと聞いております。以上でございます。

【会長】

今のH委員さんのご意見なんだけど、一応、ここの場で理解をしてもアンケートは市民の皆さんに渡すわけだから、もう少し親切にしないといい回答が得られないんじゃないかなというふうには思うところなんですね。それから、デマンドバスという言葉をご存じの市民の皆さんが一体どのくらいいるんだろうかということもちょっとわからないし、いき

なり問 8 の 12、デマンドタクシーっていきなり出てくるんですけど、タクシーってデマンドじゃないんですか。

【C委員】
括弧でこう。

【会長】
書かないといけないですよね。タクシーって呼んで来てもらうんですよね。だから、デマンドですよね、定義からいえば。でも、そうじゃない、別のものを想定してたぶん書いておられるわけで、ここは。そういうところ、受け取った側がちゃんとやっぱりわかるように、もう少し言葉の説明は丁寧にしないといけないところが何箇所かありますね、というご指摘だと思いますので、そこについては精査をしていきたいと思います。

【C委員】
ちょっとお尋ねします。アンケートは今回が初めてではないということを聞いたんですが、今回はコンサルタントさんに委託をいたしますということで、これも初めてでございますか。

【事務局】
23 年のときは委託で行っております。25 年のときは自前で、市のほうで独自で集計しました。

【C委員】
今まで通知がなかったのでアンケートって初めて見たんですが、これはもう無作為にするんでしょ、年齢も調べずに送りますよね。回収率っていうのは、もちろん無料でしょうけれども、どれぐらいのパーセンテージでしょうか。

【会長】
どうぞ、想定回収率。

【事務局】
まずですね、返信に関しましては、各ご家庭、対象者の方にコンサルのほうから郵便で送付させていただくんですけれども、返信に関しましても切手不要の返信用封筒をアンケートの中に同封させていただくような形で考えております。ですので、回答する方といたしましては、切手も貼っていただく必要はございません。書いたものを返信用封筒に入れていただいて、ポストに入れていただくだけでコンサルのほうに返ってくるというふうな

形で考えております。また、想定回収率なんですけれども、だいたいこれまで、25 年の結果がですね、細かい数字持ってないんですけれども、だいたい 1,200 ぐらいだったと思うんです、たしか。3,000 に対して 1,200 ですので、大体 4 割ぐらいの回収率が前回ございましたので、1,000 前後はあるのかなと、今の段階で想定はしておるんですけれども。以上になります。

【会長】
だいたい 30%強ですか、

【C 委員】
私なんかでも 80 歳過ぎているんですけれども、非常に時間もかかるし、見ていたら難しいし、「私にはこんなの関係ない」という人もあるだろうなと思います。

【会長】
回収率を上げる工夫。私もちょっと字が小さいかなと思ったぐらいなんですけれども、何かいいアイデアございましたらご回答をお願いします。

【事務局】
そうですね、たしかにもう少し見やすくてわかりやすい、行間であるとか、そのへんの表示の工夫はもうちょっとさせていただきたいなというふうに思います。項目については、申し上げたような形で、前回との比較もございますので、こういうふうな形でしたいなと。あと、わかりにくい表現等もございますので、どなたでもわかりやすいような解説あたりももう少し入れて、読んでわかるようなアンケートに、わかりやすくしたいなというふうに思います。以上でございます。

【会長】
はい、どうぞ、E 委員さん。

【E 委員】
私もですね、このアンケートを見させていただいて、年齢層も 15 歳以上で、高齢者の方には特に答えていただきたいアンケートなのかなと思っているんですけれども、実際これを読んでですね、アンケートの中身を理解して答えようというところまで、2 割の回収率ということで、想定として 2 割は戻ってくるかなということを考えられているようですけれども、もう少しいろいろ付け加えればアンケートの中身を理解して答えたいなって思うようなアンケートができるのではないのかなと思っています。
それで先ほどから言われているように 23 年と 25 年にもされているということですけれ

ども、無作為ということなので、実際同じ方が今回当たるとは限りませんので、まず思ったのがですね、バスの路線とかについて聞くにあたってですね、市民の方がどれだけ今、現状のバス路線とか、バスが何本走っているのかとかですね、JR まで入れるとちょっと資料として大きくなるのかもしれませんが、これはアンケートのみ送付する予定にされているんでしょうか。

あと、バス停の位置っていうのがですね、実際そのまま使われている方が自分の家の近くに、どのぐらい離れたところにバス停があるかとか、そういったところも把握できているのかなっていうのを若干思ったのと、近いとか遠いっていうのも、若い人の距離と、バス停からの 300m の範囲内がどのぐらいカバーされているというような資料がついていますけれども、300m というものお年を召された方にとってそれが近いのか、遠いのか、そのあたりちょっと感覚的に判断をすべきところもあるので。そこまで入れてると大変な作業になるので、そのあたりはしょうがないかなと思ったんですけれども、実際バス路線とバス停の位置の把握がどこまでできているのかなというのが、ちょっと思ったことです。

あとですね、7 ページの下から 3 行目のところ、「記入例に従い、7、8 ページでご回答ください」というのは、9、10 ページじゃないかなと。ちょっとそこも気になりました。

【事務局】

まず、おっしゃるようにバスの現状をですね、ダイヤであるとか路線であるとかをどこまで市民の方が把握しているのかどうか、バス停であるとかですね、最寄りのバス停。たしかに、おっしゃる通り、車に乗っておられる方はご存じない方もおるかもしれませんので、そういった現況を紹介できるような資料を工夫して、アンケートに合わせて送付できるかどうかというふうな、ちょっとまあ送付できる方向で検討したいなというふうに思います。それから、7 ページの回答例ですね、下の段に記入例があるんですけれども、これはページ間違いです。

【A委員】

私からの提案なんですけれども、7 ページの黒帯をですね、これを次のページに移してしまってですね、左側に解説があってっていう具合に、いきなりページの途中で違う質問に移ってるでしょ。これ自体が分かりにくいかと思うので、ちょっと工夫したらどうかなと思いました。

【事務局】

おっしゃる通りでございますので、ここはちょっとレイアウトから変えたいというふうに思います。ありがとうございます。

【会長】
このアンケート、委員の皆様が見れば見るほど、もうちょっとユーザーフレンドリーに少しアンケートを作ったほうがＥ委員さんおっしゃるように回収率も上がってくるだろうし、考える資料っていうのがですね、たぶん、市役所の事務局の方もコンサルの方もバスについていろいろと詳しい方が作っているもので、車ユーザーの一市民からすると、どうもちょっとかけ離れたデータにいきなりアンケートという雰囲気がないんでもないだろうなということになりました。多数のご意見を頂戴いたしまして総括しますと、もう少し回答者目線に、市民目線に立った補足をですね、いろいろと考えていただきまして、回答しやすいように。私も目が悪くなってきまして、字が小さいなというように盛んに感じましたので、高齢者にも少し優しく表記をするというところをですね、工夫いただければというふうに思います。委員の皆様、いろんなご意見ありがとうございました。
ではですね、トイレ休憩を 10 分ほど取りたいと思いますので、恐れ入りますが 55 分にご着席をよろしくお願いしたいと思います。では、一旦ここで休憩にいたします。

【午後 2 時 45 分　休憩】
【午後 2 時 55 分　再開】

【会長】
ご着席いただきたいと思います。それでは、会議を再開したいと思います。では、議題をあと 3 つ進めてまいります。(2) の（ⅱ）、9 月期 OD 調査、バスの乗降調査ですね、これについてお願いしたいと思います。

【事務局】
9 月期 OD 調査、OD 調査というのはバスの乗降調査という形になるんですけれども、これについてご説明させていただきます。

【会長】
Origin and destination（オリジン　アンド　ディスティネイション）。乗ったところと、目的地。

【事務局より資料④９月期 OD 調査（バス乗降調査）について説明】

【会長】
こんな形で、大学が始まる 9 月の後半にしていただけるということであります。これは、鉛筆を配るんですか。

【事務局】
　これはもう乗客の方は何も記入することはなくてですね、四隅を折り曲げていただくだけでいい。乗った時点で調査員がどこで乗ったかというのをまずチェックして、それでお客さんにお渡しする。お客さんはそれを持ったままずっと乗っておって、四隅だけ折っていただいて、降りるときに調査員に渡す。降りたときに受け取った調査員がどこで降りたかをチェックするというふうなことですので、筆記用具は特に必要ないです。

【会長】
　料金支払い種別の丸付けも調査員が行う？

【事務局】
　そういうことになります。

【Ｐ委員】
　これは原寸大でしょうか。

【事務局】
　はい、原寸大です。

【Ｐ委員】
　字が小さすぎて読めないんじゃないかなと。私でもちょっと怪しい。

【会長】
　じゃあ、横に大きく書きましょうか。1、2、3、4、横に大きく、ここのスペースに書きましょう。

【Ｃ委員】
　これは担当職員がつくんでしょうか。本人が折らなくても、「折って」と言えば折ってくれるんですか。前にしたことがある。

【事務局】
　調査員にそのように申していただければ折っていただくようにお話しておきます。

【Ｃ委員】
　ちょっと見にくいわね。

【事務局】
そうですね。

【会長】
こんな形だそうです。
はい、どうぞ、お願いします。

【H委員】
調査日として、平日１日を実施されるということで、予算の都合もあると重々理解しておりますけれども、平日だけではなく、土曜日、日曜日、祝日のうち 1 日増やしてはどうでしょうか。平日の利用状況と土日祝の利用状況では違うと思います。私どもが実施している OD 調査については、平日２日、土日１日、計 3 日間の OD 調査を毎年実施しております。平日だけではなくて、できれば土日祝 1 日でも、もう 1 日実施されたほうがより精度の高い OD 調査の結果が得られるのではないかと思うので、ご検討をお願いしたいと思います。以上です。

【会長】
はい、じゃあもう一問一答で。

【事務局】
事務局でございます。おっしゃられるように土日と平日については状況が変わるところもございますけれども、ダイヤについては基本平日と土日は同じダイヤでございますんでですね、ダイヤ自体の影響というのはないのかなあと。あと、おっしゃっていただいたようにだいぶ予算の都合もございますんでですね、ちょっとまあなかなか調査自体は増やすのは厳しいのかなと。あと、OD 調査というのは今年初めてではなくて、過去ずっとやってきておりましてですね、市バス時代からバスが行い、また担当が市長部局に入っては市長部局が行いということで、平日 1 日でやってきておりまして、そのへんの連続性も踏まえてこういった調査にしておるというようなところでございますので、こういうふうな形でお願いしたいなというふうに思っております。

【H委員】
わかりました。ありがとうございました。

【会長】
ほか、ございませんか。OD 調査って、私も車乗らないせいか結構当たるんですよ。列車でも当たったことがありましてですね、列車はずっと検札の後ろをついてアンケートをも

って来られたんで、特急列車なんですけれど、徳島から石井までしか乗らなかったので、「すみません、もう石井で降りちゃうのでご勘弁ください」とお断りしたこともあります。飛行機でも 3 回ぐらい当たりました。飛行機も OD 調査あるんですよ。目的とか、どのような手段で航空券買いましたかとかですね、そういう、企業のマーケティングを含めた調査も 3 回ぐらい当たりました。全数調査のときもあるんですけど、全数調査、例えば石川県が小松空港をもっと利用できないか、あそこ新幹線が走ったんで、そういうので全数調査をされていたことにも当たりました。航空会社がやっているマーケティングの調査はですね、なぜか知らないけど飛行機の中で 4 人ぐらいだけピックアップ、事前にしているんですね。そこに当たってきまして、そのときには日本航空のマークの入ったペンを頂戴いたしました。最後それが言いたかっただけ。まあ、そういうふうなことであります。じゃあ、OD 調査はこのチケットというか、アンケートの回答のちょっと工夫という意味でもっとしやすいということ、それから回数については、コンサルタントさんとの契約の上限も一応決まっておりますので、とりあえずご容赦いただきたいということにしておきたいと思います。では、このようにお進めいただきたいと思います。

では、次に参ります。(2) の (ⅲ)、JR 利用者の移動実態調査についてに参ります。よろしくお願いします。

【事務局より資料⑤JR 利用者の移動実態調査について説明】

【会長】

JR との、またそのほかの交通手段、バスに限らずですね、いろんな交通手段ありますけれども、それとの接続状況をこうやって調べてみようという。すみません、立江駅ってバス停ありますか。

【事務局】

立江小学校前が一番近いバス停ですが、ちょっと離れております。

【会長】

なるほど、わかりました。はい、H委員さん、お願いいたします。

【H委員】

JR の利用者の移動実態調査を実施されるということで、非常に有益な調査だと思っています。私が今日この会議に参加させていただくときには、JR の牟岐線で、南小松島駅まで来まして、そこからバスを乗り継いでここまで来ようと思ったんですけれども、ちょうどいい接続のバス路線がなくて、徒歩でここまでやって来ました。JR の鉄道駅と路線バスの連携といいますか、乗り継ぎといいますか、その結びつきを考えるのは非常に有益だと思

います。この調査でここがまさに網形成計画にあたる部分であると感じております。
それと、一つお聞きしたいのは、調査方法で調査員の目視で、鉄道、バス、タクシーの乗り継ぎを把握するということなんですけれども、目視だけで十分把握できるのだろうかという疑問が素直にあります。あと、市内に中田、南小松島、赤石、立江の 4 駅がございますけれども、4 駅の 1 日平均の乗車人数、駅を利用される人数はだいたいどのぐらいなのかを知りたいので、もし把握されておられたら、教えていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

【会長】
2 点なんですけれども、2 点目は JR さんのほうが公表されているのでそれを使えばいいと思います。じゃあ 1 点目、お願いいたします。

【事務局】
調査の仕方を目視で行うということでございますが、これはこういう調査の方法しかございませんので、目視でできる限り把握していただくしかないので、こういった形での調査でお願いできたらというふうに思っておりますので、よろしくお願いできたらと思っております。
乗降人数は、南小松島駅のほうでだいたい乗り降り 1,000 人くらいというふうな認識ではございます。

【Q委員】
1,800 人。

【会長】
倍くらい違いますね。はい、P委員さん。

【P委員】
H委員さんと一緒なんですけれど、JR からバスに乗り継ぐ場合があると思うんですけれども、バスに乗ってどこに行くかというのはわからないと思うので、そのへん、バスだけでも例えば乗客の方に「どちらまでですか」とか聞くとか、そういう工夫もあってもいいんじゃないかなと思うんですけど。それと、E委員さんも言いかけてたと思うんですけれども、実際の、実データの活用の方向というのは、たとえば、JR さんの乗降人数もあるし、徳バスさんのバスの乗り降りの各バス停でどうされているかというのも、ちょっとこれはデータがあるかどうかわからないんですけれども、そのへんとアンケートとをリンクして調節すれば、よりわかるんじゃないかなと思いました。

【会長】

コンサルタントさん、よろしくお願いしたいと思います。この、いま、H委員さんはじめ皆さんのご意見をいただいているのはですね、網計画という言葉が出てきたわけなんですけれども、実は網計画というのは、小松島市に中央で考えた国の方針がすぐ100%当てはまるかどうかは少し議論があるにしてもですね、基本的なコンセプトは交通手段、これ交通モードという呼び方をしているんですけど、いろんな手段がありますよねっていう。自転車、歩き、自家用車、タクシー、鉄道、バス。それからアイデアなんかあればね、船もある。具体的に船使っているのは、出羽島ってありますよね、牟岐ですね。ああいうところも含めて、考えてくださいと。で、今までいろんなもので競争してお金を安くして、乗る人、お客さんを獲得しようとする産業枠な考え方で進んで来たんですよ。というのは人口増えていきますから、お互いがサービスで競争して、バスはバス、鉄道は鉄道、って競争して人を集めて産業を発展させていけばそれで済んだんですけれども、冒頭ありましたように、人口は当面非常に増えることは難しいのでお客さんそのものが増えない。そうなってくると今度は競争ばっかりしてたんじゃ喧嘩になっちゃう。あんまり喧嘩しないで済むように、お互いが連接したり、得意な部分、長く走るには新幹線と飛行機が一番強いのはわかりますよね。四国でいえばその次に高速バスが強いんですよね。それとお客さんを取り合いするんじゃなくて、きちんとみんな、使いたい人がうまく使えるようにしましょう、というのが網計画なんですよ。今回、この今JRの駅の状況を調べるのは、ひとつはそれの鍵になるところなんですよね。なかなか、今、南小松島駅や中田駅も道路までちょっと駅からあるし、先ほど私が質問した立江の駅もちょっとバス停までの距離があるところなんですけれども、そういうところをうまくダイヤを調整してつないでいけば、もっともっと市全体で便利な交通網ができるんじゃないかなという発想があるわけなんです。で、ちょっと想像してみてください。東京や大阪の衛星都市のようなところ。けっこう鉄道が頻繁に走ってくる、だいたい5分おきとかそんな感じで来て、そこにですね、バスがニュータウンからやって来る、そういうのをまあ一応一面で想定して。一方ですね、こういう地域もあるんですよね、中山間地域っていうんですけど、島根県の山奥のほうなんですけれども、農協前にしかバスが来ない。農協の前にバスが来て、そのバスが1日に3本しか走っていない。何目的で走っているかというと、1本目は高校生を乗せていく、2本目はおじいちゃんおばあちゃんを乗せていく。目的地が決まっているんですね、高校生は高等学校、おじいちゃんおばあちゃんは日常の通院の手段ですね。そういうふうに目的を特化した農協前発のバスダイヤを組んでいる。じゃあ農協の前まではどうやって集めてくるんですか。これはいろんなモードがあって、家族の送り迎えに始まって、近いおじいちゃんおばあちゃんは歩いて来るというのもある、もう一つはですね、合法的な白タク、白ナンバーなんだけど乗せていい、自家用有償運送。そういうしくみがあるんですよね。いろんなこと組み合わせて利便性を上げていこうというのがこの網計画の目的で、そのコアになる考え方として、このJRの調査をやってみましょうということでした。ご意見としましては、

難しいかもしれないけど、バスに乗る人のどこまで行きますかぐらいは聞けないかなというご意見があったんで、これはもうちょっと方法論上の検討ということにしておきたいと思います。これも1日、9月の平日1日の予定でしっかり調査を行うということでございました。これはこのへんでよろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

どうぞ、Q委員さん。

【Q委員】

お世話になります。今回、このJRの利用者の調査にあたっては、日程の調整は前もっていつやるのかというのを調整させていただければ非常にありがたいなと思います。と申し上げるのが、こういった調査をしておりますと、やはりご利用者の方から、たとえば駅から乗る人が、調査員が近くでいろいろとやっているのを受けて、行動を見られているというように感じて、列車内の車掌に問い合わせをするといったことが想定されます。そういったことがありますので、やはり社内の方に事前に連絡をして周知徹底しておきたいと思いますので、ここは調整をよろしくお願いしたいと思います。

それから、合わせて、この4駅で調査をするのであれば、駅にこんな調査やってますよっていうような簡単な掲示物、こういったものも掲示しておけば、一応掲示してますよということで説明もしやすくなるかなあというふうに感じます。

それと、各駅に適切な人数の調査員を配置しますということなんですけれども、私共のほうでも列車ごとにOD調査を行っており、データもございます。一般的にどのような時間帯の列車がどういうふうな状況か把握しておりますので、必要であればご提供させていただいて、調査にあたっての配置人数や、計画の検討にご活用いただけたらと思います。よろしくお願いします。

【事務局】

ありがとうございます。非常にありがたいお申し入れでございますので、データについてはぜひご提供いただけたらと思います。あと、周知と事前の協議については当然させていただいて、十分なお知らせのもとでさせていただけたらと思いますので、またよろしくお願いいたします。

【会長】

こんな形で網計画の基礎資料をですね、取得したいと思います。

はい、どうぞ。

【C委員】

徳バスさんにちょっとお礼。あいさい広場から日赤へ入って、日赤からバイパスを回って徳島駅行きっていうのは、あれは小松島バスですか、徳バスさんですね。1日に5往復あ

るんですよね。あいさい広場は私 2 回ほど行ったんですけれど、あのバスは昼までは割と人が乗っているけれど、昼からはあまり乗ってない。そういうふうなのはまたいろんなアンケートなり取って、年に何回かバス路線の変更っていうのはあるんですか。

【Ｉ委員】
あいさい広場に行く路線については、4 月から運行させていただいて、市の広報とかでもご周知いただいて路線のほう運行させていただいているんですけれども、ちょっとまだまだ周知のほうが行き届いてなくて、思っていたほど利用はないという状況です。

【Ｃ委員】
私ね、あれ非常に利用するんですよ。ということはですね、バイパスを通るほうが徳島駅へ行くのは早いんです、津田から論田まわるよりね。それから三軒屋の私の主治医の病院があるので、そこへずっと行っています。4 月にバイパス経由便廃止という話があって、どうしようかと思っていました、この席で。バイパスを回ってくれて非常に便利なんです。私は朝早くに乗るんですが、県庁行く人たちが乗ってます、ルピアあたりからね。だからあの路線は利用者が少ないと思うんですが、廃止されたら困る住民がかなりいるなというのが私の意見です。私住民代表なのでこんなこと言いますが、日赤に入るところがいいんですよ。前は小松島の市役所前まで自転車で行って、それからバイパス経由便に乗っていたんですが、日赤前だと乗るのに非常に便利なのでお世話になっております。ありがとうございます。

【Ｉ委員】
ありがとうございます。一応、我々も 9 月に OD 調査を行う予定にしてますし、徳島県さんのほうも別に調査をしていただけるということを聞いてますんで、あいさい広場の路線はもっとご利用いただけるように我々も周知させていただいてですね、乗務員の不足が続いている中で厳しい状況なんですけれども、増便ができればというふうに思っておりますのでまたこれからもご利用よろしくお願いします。

【会長】
公共交通、これ昔と違って、マーケティングの手法をですね、かなり入れないといけない時期に来ているんですね。以前だったら幹線だけ走ればそれで済んだんですけれども、一体どういう人が本当に使ってくれて、使ってくれる人からいくら貰って路線を維持していくかということをきちんと考えないとうまくないし、競争ばっかりやっていても、先ほども言いましたけれども、あんまりうまくいかない時期に来ているわけです。専門家たちがいる前で恐縮なんですけれども、これまで公共交通の安全面、ものすごくハードルが高かったんですね、規制があって、たとえば過度な競争をしたら従業員の運賃が下がってし

まって安全性が担保できないんじゃないかという、そういうロジックなんかもあって非常に規制が厳しかったわけです。でも、あんまり規制ばっかり言っていてもユーザーのこと考えられないんじゃないのかという意見も出てきている状況でですね、いろんな人がいろんなことを考えなきゃいけないよねっていう考え方が出てきました。安全規制というのは一義的に大事なことです。これ全部人間の命が乗って動いているものですから、大事なんですけれども、安全規制に名を借りた経済的な規制というのは考え直していかないといけない時期に今来ているというのが一つの現状かというふうに思います。一応、調査このように進めてまいりたいと思います。

今後のスケジュールについて、それでは 4 に移りたいと思います。

【事務局より今後のスケジュールについて説明】

【会長】

以上でございます。私から事務局にお願いでございます。だんだん資料が増えてまいりますので、忙しいとは思いますが、極力事前送付という形をですね、取っていただければよいかなと思います。委員の皆様方もご多用中のところ恐縮ですが、あらかじめ一通り目を通しておくということにご協力を賜ればというふうに思いますので、よろしくお願いしたいというふうに思います。年度内の日程、こういう形で進めてまいりたいと思います。それまでに、コンサルタントの方でですね、いろんな作業をして、事務局と調整をしながら資料を整えてまいりたいと思います。

配置なんですけど、今日皆さん、こちら見えてましたか。もうちょっと前でもいい。スクリーンの場所は向こうになるので、もうちょっと見えやすいところのほうがいいかと思いますので、工夫をしていただければというふうに思います。じゃあ、またよろしくお願いしたいと思います。お気づきの点等ございましたらご発言賜りたいと思います。よろしゅうございますでしょうか。

それでは、今回の議論、閉じさせていただきたいと思います。進行を事務局の方にお返しいたします。

【事務局】

【次回の開催場所等についての事務連絡】

それでは、以上をもちまして、平成 28 年度第 2 回小松島市地域公共交通活性化協議会を終了したいと思います。委員の皆様長時間ありがとうございました。

午後 3 時 42 分　閉会